

現役生に向けて

51期 仲田照典

現役生の皆様こんにちは。

理工ボート部 51期の仲田照典と申します。なかなか納会や練習会に顔を出せていない為、仲田って一体誰だと思っ方が大多数かと思いますが、皆さんご存じの桑原コーチの同期といえばイメージしやすいでしょうか。先日の初漕ぎにて、OB 会長より何か現役生の為になるような文章を書いてもらえないかとの依頼を受け、今回の季刊誌への文章を書かせて頂いています。

ただ依頼を引き受けたものの、さて一体何を書こうか、そもそも現役生の為になることとはどんなことだろうかと悩みました。というのも私は現役生の頃に大した実績を上げたわけではありませんし、現在社会人3年目ですが、前回寄稿していただいた諸先輩方のように、仕事に関しても特段これをやり遂げたということはまだないからです。困ったなあ、困ったなあと。

と依頼を受けてから数日悩んでいたのですが、自分が学生だったときに、こんなこと知っていれば嬉しかった、そんなことを書ければ、少しでもこの文章が皆さんの役に立つんじゃないかとふと思いましたので、私が現役生の頃に知っておきたかったことを今回書いてみることにします。幸い、まだギリギリ20代ですので、皆さんと感覚が近いかもしれませんので。

1. やりたいことの見つけ方

皆さんは自分の人生で仕事にしたいことってありますか？

そんなのとっくにあるよ、余計なお世話だって人は読み飛ばしてください（笑）

私はというと、ここでいうのは恥ずかしいですが、幼少の頃から受験生までずっと医師になることを目指していました。同機は単純で、小学生だった当時、「救命病棟 24 時」という東京で大震災があったらという設定の医療ドラマ（ちなみに江口洋介が主演でした）が放映されていたのですが、こんなカッコいい仕事があるのかと衝撃を受け、それを機に医師になることを目指すようになりました。あまり良い動機ではないのかもしれませんが、受験生の頃までこの考えは変わらなかったもので、自分の中では思いとしてかなり強かったのだと思います。

浪人も経験して、結局は箸にも棒にもかからなかったわけですが、当時やれることはやり切ったつもりだったので、もうこの道はあきらめようと合格を頂いていた中央大学の物理学科に進学しました。物理学科を選んだのは、当時物理が一番得意、好きだったというだけで、特に将来どうなりたいかというイメージを持たないまま進学をしました。今思ってもこの選択は安直であったと思いますが、その一方で、好きなことでないと勉強は続かないと思っていたので、やりたいことをやるという意味では正しい選択だったのかもしれません。

上記の私の場合は、普段の生活の中で自然とやりたいことが見つかる場合ですね。

その一方で、僕、私はこれまで生きてきたけど、特段これと言ってやりたいことがないという場合もあるかと思います。そういった現役生に、1つアドバイスを送りたいです。そのアドバイスとは、

やりたいことを探したいときは、やりたくないことをまず探してください。

え、やりたいことを見つけないのに、なんでやりたくないことを探すの？って思いますよね。私も最初この言葉を聞いたときはそう思いました。でもよく考えてください。今世の中にある仕事と呼ばれるものは、有限です。数に限りがあります。それらの仕事を全て把握した上で、やりたくない仕事を除外していったら、もしかしたらやりたい仕事が見つかるかもしれませんね。例えば、自分の性格が内向的で、どうも営業職には向いていないなと思ったら選択肢から営業職を外すといった具合にです。(念のため断っておきますが、営業職を悪いと言っているのではなく、あくまで一例としてです。実際営業さんなくして会社は成り立たないと思います。) もちろん職種というフィルターではなく、別の視点で絞っていてもいいと思います。毎日満員電車にもまれて通勤するのは嫌だと思ったら、車通勤できるような地方の企業を選んでよいかもしれません。それでもやりたい仕事が見つからない場合は、自分で新しい仕事を造り、独立するという選択肢もいいかと思います。皆さんご存じのように、新しい仕事は日に日に増えていますので。実際理工ポート部にも独立をされた諸先輩方がいらっしゃるの、機会があれば話を聞いてみるのもいいと思います。

一言断りとして、ここでやりたいことの見つけ方についてお話していますが、やりたいことがない人生というのももちろん私はありだと思っています。やりたいことがある人生が必ずしも幸せとは限りませんので、自分なりの幸せを見つけることが大切だと思います。



やりたくないの反対にあるやりたい仕事は？

2. 失敗をすることについて

皆さんは失敗をすることに対してどのようなイメージがありますか？

失敗というと、おそらく大方の方があまり良いイメージを持たないような気がします。そもそも失敗とはどのように定義されるのでしょうか。試しにウィキペディアから失敗の意味を引用してみると、

『失敗とは、望ましいまたは意図された目的を満たさない状態または条件であり、成功の反対と見なされる場合がある。失敗の基準は文脈によって異なり、特定の観察者または信念システムに対して相対的である可能性がある。』

とあります。小難しい文章で説明されていますが、失敗とは目的を達成できない状態、成功の反対と見なされることが多いようです。

このような意味での失敗って、やはりできれば回避したいものですね。皆さん現役生だとバイトの経験がある方もいると思いますが、例えば塾講師のバイトの場合だと、授業時間内に予定していた範囲まで授業を進められなかった、飲食店の場合だと注文の商品とは別の商品を提供してしまったとかでしょうか。私も仕事で失敗することはもちろんあり、やはりこの意味での失敗をすると多かれ少なかれ落ち込んでしまいます。

ただ一方で、失敗から何かを学び、それを次に生かすことで目的を達成できれば、失敗は必ずしも悪いものではないと捉えることもできます。もうすでにお気づきの方もいるかもしれませんが、この意味での失敗は、成功までの1つの過程であって、それによって得た経験知は、成功までの土台になるので大切な「プラス資産」です。そのように考えると、失敗の反対は成功ではなく、

何もしないことが成功の反対

上記のように考えることができます。何もしないことと成功の中間に失敗があると言えいいでしょうか。私は学生時代、失敗することをかなり敬遠し（今もそういう部分がありますが（笑）、あの時やっておけばよかったと後悔することが今になっても思うことがいくつかあります。で、なにが言いたいかといいますと、私個人の意見としては、少しでもやりたいなあとと思ったことには挑戦し、そして失敗の経験をしてほしいのです。挑戦してうまくいけばそれは儲けものですし、仮に失敗しても、それはプラス資産となるので、特に若いうちは、たくさん失敗をすることが皆さんの人生の糧になると思います。長い人生で見ても、人は死ぬまで失敗をします。なので、今のうちに失敗をマイナスのイメージから、プラス資産として捉えられるようになることを是非お勧めします。



“ 私は失敗したことがない。
うまくいかない1万通りの方法を見つけたのだ。

—— トーマス・エジソン

3. 人生での決断について

次にお話ししたいのが、人生の岐路での決断についてです。初めに断っておきますが、これは私の価値観が強めなのであまり参考にならないかもしれません。

1.のやりたいことの見つけ方で少し触れましたが、私は物理学科出身です。ただ物理学科に進学するといったとき、家族や周りの人から、かなり反対をされました。物理学を学んで、その先の進路はどうするんだとか、研究者になれるのはごく一握りで、教員に落ち着くんじゃいかとか言われました。（ここでも念のため断っておきますが、教員を悪いと言っているのではなく、研究者になるのは難しいのではという意味を込めて言っています。むしろ私は先生という仕事をリスペクトしています。）ただ私は、やりたいことを勉強しないと続かないと思っていたので、周りの反対を押し切って物理学科に進学しました。

入学後は理工ポート部の活動、勉強や遊びと忙しくしているうちに、あっという間に4年生になり、また新たな進路を決める時期になりました。ここではかなり自分の中でも真剣に進路を考え、悩み、たくさんの方にも相談しました。そこで私がたどり着いた結論が、漠然とではありましたが、医療に関する研究をするということでした。もともと医学部志望だったことから、研究という形で医療に貢献したいと思ったためです。

医療と言ってもアプローチの仕方が広く、バイオからマテリアル、情報工学を活かしたバイオインフォマティクスと多岐にわたりますが、ここで私は思い切って専門を変え、マテリアルという分野で医療にかかわる道を選びました。具体的には専門を物理学から化学に移そうとしたわけですが、ここでも私は周りからかなりの反対を受けました。大学院から専門を変えるなんて無謀だとか、研究室の教授からも大変だよと釘をさされました。

それでも、当時自分の中で一番やりたい研究だったため、専門を変えて大学院に進学しました。

大学院に入ってからは大変でした。化学科の方が聞いたら驚かれるかもしれませんが、私はポリマーという概念を知らずに高分子の生体材料の研究室に配属されています。座学では授業の内容について行けず、研究も中々うまくいかずで踏んだり蹴ったりでしたが、指導教諭や友人の助けもあり、何とか研究を進めることができました。

そして就職活動です。ここでも苦戦しました。製薬、化学メーカーの研究職を中心に就職活動を行いましたが、大学院から専門を変えたということもあってか専門性を疑われ、なかなか内定が出ませんでした。私が就職活動をしていた当時は有効求人倍率が過去最高ということもあって、研究室の同期はかなり早い段階で内定が出ていましたが、私は中々内定が出ず、ただただ焦っていたことを覚えています。この時は流石に精神的にも追い詰められて、研究室の同期からの意見もあり、別の職種を受けなおすことを考えました。さらには不幸が重なってか、この時母が癌を患い、より精神的に追い詰められました。

ただ私は、この出来事が母を救うように言われているように感じ、あえて研究職を受け続けました。そして、最後の最後で、医療とは離れてしまいましたが、研究職で内定が出ました。

長々と駄文を書いちゃいましたが、ここで私が言いたかったのは、自分自身の価値観を大切にされた方が結局のところ良いのかもしれないということです。

上記を読んでいただいで分かるように、極端ではありますが、私はことごとく周りの意見を聞かずにここまで来てしまいました。が、研究職につくという目標は最終的に達成できました。もし私が誰かのアドバイスを鵜呑みにして、その通りにしていたら、今の仕事には就けなかった気がします。決して人からのアドバイスを聞くなど言っているわけではありませんが、

自分以外の他者からのアドバイスは、その人の価値観と経験に基づいている

このことを私は伝えたいです。アドバイスをもらうことはもちろんメリットがあり、自分の視野が広がるのは間違いありませんが、自分の価値観と照らし合わせず、そのまま鵜呑みにすると、あれ、なんか違うな、という現象が起きる確率大なので、まずは自分の価値観を大切に選択してほしいです。ということは、今私が話していることも読まれている方にとっては大いに間違っている可能性がありますね（笑）。

4. 研究職を選ぶこと

全員の現役生には参考にならないかもしれませんが、研究職、研究者を目指す現役生に、研究を志すうえで知っておいた方がよいことを書いてみることにします。

まず、初めに伝えておきたいのが、もうすでに聞いたことがあることかもしれませんが、大学までの座学で求められる能力と、研究で求められる能力は全くの別物であるということです。座学、ペーパーテストで求められることには、基本的に事前に用意された答えがあります。答えと違っている解答を書けば、バツを付けられましたよね。

一方で、研究に関しては基本的に答えが分かっています。というか今まで誰も取り組んでいない最先端のことを研究するので、当たり前といえば当たり前かもしれません。（ただし学生実験は除きます。学生実験は基本的に予め答えが用意されています。）

ここが一番の大きな違いだと思っています。座学の延長ぐらいの考えで研究室生活をスタートすると、少し大変な思いをするかもしれません。実際に私が配属された研究室には、その学年の首席の学生が所属していたのですが、研究がうまくいかずに度々寝込んでいました（笑）。反対に、座学はそこまで優秀ではないかなと印象を持った同期がいたのですが、こと研究に関しては目を見張るものがありました。なので、座学が得意ではないからと言って、研究を諦めるということもしなくてよいと思います。ただその一方で、上述の文とは相反するようですが、学部レベルの知識はしっかり勉強しておいた方がよいということも覚えていてほしいです。

研究で生み出される発想、イノベーションとは

基本的に既存の知識と既存の知識の組み合わせであることが多い

です。なので、ベースの知識がないまま研究室に配属されると上述の場合とは別の意味で苦勞する可能性があります。研究職を志す現役生は、自分の専門の勉強はしっかりと行っておいた方がよいと思います。

また、研究ってそもそもどんなことをするのか知りたい現役生もいるかと思いますが、行うことは基本的にはシンプルで、仮説→検証→結果→考察の4つの流れです。例えば、現在私はスーパーエンジニアリングプラスチックという電子材料の物性を向上させる研究を行っています。材料の組成の中のAという試薬がプラスチックの物性の向上に大きく寄与しているという仮説を立てた場合に、そのA試薬の割合を増やした組成の材料を作製、物性測定といった検証を行います。その結果、物性の向上という結果が確認されたならば、そのA試薬の寄与があるかもしれないという考察を得ることがで

きます。基本的に研究はこの仮説→検証→結果→考察の4つの流れで行われるので、覚えておいて損はないと思います。

あと話が脱線しますが、この流れって、何かに似ていると思いませんか？

私はボート競技の練習によく似ていると思います。クルーミーティングで立てた仮説を実際の練習で検証し、その結果をもとに改善（考察）を行っていきます。PDCA サイクルの方が意味合いが近いかもしれませんが、これは研究に限らず仕事全般に応用できると私は思いますので、この意味では、ボート競技の練習は社会に出る為のとても良い練習になるはずですよ。なので、現役生の皆さんはぜひボート競技の練習により真剣に打ち込むとよいと思います。

最後に学位についてですが、私個人的には、研究職に就きたいならば修士号以上の取得をおすすめします。もちろん学士で研究職の方もおり、皆さんとても優秀ですが、修士号以上を取得しているとやはりある程度の研究の経験をできる、していると見てもらえるので、大学院進学を強くおすすめします。

また博士号の取得に関してですが、1つは自分はこの分野で生きていきたいと思う分野があるかどうか分かれ目になると思います。例えば、私はライフサイエンス（医療）分野の研究職が第一志望でしたが、現在は化学メーカーでプラスチックの研究をしています。博士号を取得したからと言って、必ずしも自分のやりたい分野の研究が行えるかは保証できませんが、修士号と比べてその確率は上がると思います。あとはやはり、自分は研究が好きで、一生この道で生きていきたいと思ったのなら、博士号の所得をおすすめします。日本の民間企業で研究する分には修士号でもよいかもしれませんが、アカデミックのポジションや、世界に出たいのならば、博士号を取得しましょう。これを決断する時期ですが、できれば修士1年生の終わりまでに決めておくのがベターかと思います。2年生になるまで持ち越してしまうと、就活や修論で忙しくなります。就活を経験したうえで、博士課程進学を検討するのもありますが、早いに越したことはないです。あとは実際に研究室に配属されて、研究に触れてから考えるのが一番良いかと思います。



3年生時のお花見レガッタの写真。練習では試行錯誤を繰り返しました。

5. その他参考になりそうなこと

私は本を読むのが好きで今でも月に数冊は本を購入するのですが（といっても全てを読んだりせず必要などころだけ読んだり、時には積読したりします）、ここで学生の時に読んで影響を受けた、また当時読んでいればよかった本をシェアしてみることになります。

①ユダヤ人大富豪の教え

自己啓発本を多く書かれている本田健さんという方の著書で、幸せなお金持ちになるための 17 の秘訣というサブタイトルのもとに、物語形式で文章が書かれています。読んでいてハッとさせられることが多く、特に人生は実はシンプルで、思考と行動の 2 つによって成り立っている、そのため体だけでなく頭に入れる情報にも気を付けるべきという文章は今でも強く印象に残っています。

②目標達成ノート star planner

私が現役生の時に、現在メジャーリーグで活躍している大谷翔平選手が活用していたことで話題になった、オープンウィンドウ 64 という目標への道筋を棚卸するツールがあるのですが、それを元に作られた書籍です。大谷選手が使っていたというとなんだか身構えてしまいますが、普段の自分の目標達成の程度を定点観測するツールとしてとても有効なので、是非一読して、実践してみることをお勧めします。

6. 終わりに

私は地方出身で大学から東京に出てきて、大して知り合いもない中、期待と不安が入り混じった大学生活をスタートさせましたが、理工ボート部の活動を通して信頼できる仲間と、そして自分の人生の方向性を得ることができました。このような実りのあった時間を過ごせたのは、理工ボート部がただ試合で勝つことだけを目指す部活ではなく、自分たちで自分たちなりの目標を自主的に設定し、それを実践できる環境にあったからだと思います。そういった自由なカルチャーが理工ボート部にはあるので、現役生の皆さんには是非その環境を活かして、自分の目標に合わせた活動を送ってほしいと思っています。

以上長々と長文、駄文を書いてしまいましたが、この文章が少しでも現役生の皆さんの役に立つこと、また現役生の皆さんが充実した学生生活を送れることを祈念して、文章を締めさせていただきます。